

香川県の「ゲーム条例」を巡る検証報道

第61回ギャラクシー賞 報道活動部門「選奨」受賞

KSB瀬戸内海放送が約4年にわたり取り組んできた香川県の「ゲーム条例」を巡る検証報道が、NPO 放送批評懇談会が主催する第61回（2023年度）ギャラクシー賞の報道活動部門で「選奨」を受賞しました！



2020年6月放送「検証ゲーム条例」より

この報道は、2020年4月に全国で初めて施行された香川県のネット・ゲーム依存症対策条例(通称・ゲーム条例)を巡り、「ゲームの1日の利用時間を60分まで」という目安を定めるなど中身の医学的妥当性や、KSBの情報公開請求で明らかになったパブリックコメントの水増し疑惑をはじめとする制定過程の不透明さ、そして条例制定後の動きや県の依存対策事業について検証したものです。

夕方のローカルニュース「News Park KSB」などで報じたニュースや特集は計85本。2020年と22年に55分の特別番組を2本（「検証ゲーム条例」、「検証ゲーム条例2」）放送したほか、取材記者がノンフィクション書籍『ルポゲーム条例』（河出書房新社／2023年4月刊）も刊行しました。

選奨委員からは「議会への鋭い目を持ち、検証報道を続ける記者の粘り強さが表れた報道活動である。パブリックコメントの水増しをスクープした調査報道にとどまらず、条例制定後の地域の動きも丹念に追い、取材をまとめた書籍を出版するなど、行政を監視する地域メディアの役割を果たすもの」という評価を受けました。

「ギャラクシー賞」は制作者たちの番組作りへの情熱に光を当て、番組の向上や発展を促すことを目的にNPO法人放送批評懇談会が1963年に創設した日本を代表する放送賞です。

このうち、長期にわたる調査報道やキャンペーン報道、番組・局の枠を超えた取り組みなどが対象となる「報道活動部門」には、2023年度、全国のテレビ、ラジオ局などから30作品の応募があり、大賞1、優秀賞2、選奨3作品が選出されました。

KSB瀬戸内海放送がギャラクシー賞で選奨以上を受賞するのは、第52回（2014年度）の報道活動部門の大賞「『高知白バイ衝突死』を巡る検証報道」以来、9年ぶり3回目です。



5月31日に東京で行われた贈賞式の様子（受賞は山下洋平記者）

【参考】KSB 瀬戸内海放送のギャラクシー賞受賞歴

第44回（2006年度）報道活動部門 選奨

「ガソリン吹きこぼれ事故」にかかる一連の報道

第47回（2009年度）テレビ部門 奨励賞

テレメンタリー2009「唐辛子を口に入れたのは誰か 倉敷男児窒息死」

第52回（2014年度）報道活動部門 大賞

「高知白バイ衝突死」を巡る検証報道

第54回（2016年度）報道活動部門 奨励賞

元陸軍通訳永瀬隆氏と捕虜問題を巡る一連の報道活動

【問い合わせ先】 KSB 瀬戸内海放送 コンテンツ事業ユニット （広報）馬場

087-864-5561 alfee@ksb.co.jp